2024年とこれから

- 地域をひとつの大きな家族に -

2024　主な活動

1月2日	能登半島地震緊急支援	地域活動
1月24日	自治会の餅つき大会参加	地域活動
2月2日	2024年度介護保険制度改定について	人材育成
2月4日	FUKUSHI BEAN'S 24	人材育成
2月16日	中から見た在宅・地域看護のリアルVol.1	人材育成
3月9-10日	防災キャンプ	地域活動
3月11日	3.11.キャンドルナイト2024	地域活動
3月15日	中から見た在宅・地域看護のリアルVol.2	人材育成
3月28日	視察シンガポール　AWWA LTD, Health & Senior Care	取材・見学
5月11日	新オフィス見学会	地域活動
5月16日	駄菓子屋クレヨン、オープン	地域活動
5月22日	掃除＆珈琲＋運営推進会議（２ヶ月毎）	地域活動
5月25日	研修　はっぴーの家ろっけん	人材育成
5月27日	研修　平成医療福祉グループ	人材育成
6月2日	テレビ放映　未来につなぐエール	取材・見学
6月11日	まちかど寺子屋Vol.1	人材育成
6月26日	訪問看護におけるリハビリテーション職の役割	人材育成
6月27日	まちかど寺子屋Vol0.2	人材育成
6月30日	団地内での七夕飾り	地域活動
7月11日	まちかど寺子屋Vol0.3	人材育成
7月13日	まちかど寺子屋「生きるとは」	人材育成
7月24日	ACPボードゲーム　他者の人生終盤を追体験する	人材育成
8月10日	夏祭り　湘南大庭2024	地域活動
8月17日	駒寄地区夏祭り	地域活動
9月4日	チームビルディング　全スタッフ研修	人材育成
9月12日	坂井シェフ　フレンチ×嚥下食の試食会	取材・見学
9月16日	NHK　認知症関連の特集番組	取材・見学
10月2日	視察シンガポール　AWWA LTD, Health & Senior Care	取材・見学
10月9日	最後までその人が、その人らしく生きられるように	人材育成
10月23日	「江ノ島に行きたい！」事例検討会	人材育成
11月10～17日	デンマーク研修	人材育成
12月14日	インドネシア　人材発掘	人材育成

地域活動　能登半島地震の支援、大庭での活動

年始は能登半島地震の緊急支援からスタート

　2024年の地域活動は、元旦に’発生した能登半島地震への緊急支援から始まった。発災直後から東日本大震災で「全国訪問ボランティア ナースの会 キャンナス」で現地コーディネーターとして活動していた仲間に連絡をとり、1月3日に代表の菅原健介が輪島市に入った。医療法人社団オレンジの紅谷浩之医師と連し、岐阜、福井、石川などの医療法人やＮＰＯ、株式会社等の在宅医療の仲間と連携しキャンナスの合同サポートチームをつくった。、新生児用のミルクや哺乳瓶を届けたり、避難所のトイレの衛生管理や福祉避難所の整備などに奔走した。

　「この状況で笑える仲間は、ある意味最強。東日本大震災、熊本地震、長野の洪水など支援をしてきたが、能登半島地震は地滑りや倒木、建物の倒壊など現段階で命の危険を感じることが多い。災害支援に強く、命の覚悟も持っており、その上で専門性の高いメンバーと共にいられることを誇りに思います」と菅原が言った。石川和子、中野正英ら経験者も支援に加わった。また支援物資の取りまとめなどのバックヤードや、普段の業務を滞りなく実施するなど、まさしくぐるんとびーの総力を投入した地域活動だった。

緊張感が高いからこそ、普段の地域活動を重視

　まだまだ地震への不安が高い1月24日。ぐるんとびーの看護小規模多機能事業所が入っているマンションの自治会での餅つき大会に参加。

　事前準備から住民同士で声をかけあい、餅つきしながらたわいもない話をする。マンションに住む子どもたちの成長を感じたり、かんたきを利用してくれたご家族の話に涙ぐむ住民さんがいたり。

　自治会長さんからは「住民同士の繋がりを点から線や面に変えていきたい。ぐるんとびーがマンションに来てくれたことは財産になっている」とお話を頂いた。

　参加したスタッフも、ホッとひと息つける温かい時間を過ごした。

防災キャンプで、「もしも」と「いつも」をつなぐ

東日本大震災での震災支援を通して、平時である「いつも」のつながりや防災意識が重要だと学び、ぐるんとびーを立ち上げた。今回の能登半島地震を通して、いつまた関東をはじめとする国内に大きな災害がくるかわからない。

　そこで「もしも」災害に見舞われた時を想定した防災キャンプを体験し、緊急時の身の守り方や暮らし方を学べるプログラムを企画した。炊き出し体験、防災食の試食、停電体験など、避難所での暮らしを体験し、しっかり学びながらも大人も子供も楽しめるようにした。

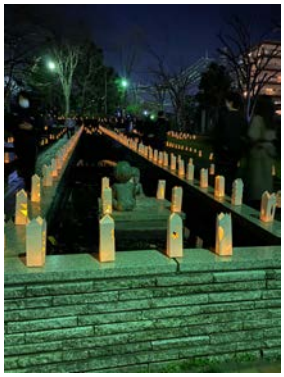
主催者の感想

「小学生以下のお子さんが多かった中、朝まで体験してくださったご家族もいらっしゃっいました。それはそれは寒かった。ホッカイロ最強です！

　そりゃトイレも行かないわ、身体は硬くなるしお腹もそんなに空かない。水分もめんどくさくなる。そんな中での交流やラジオ体操で身体を動かすって大事だと思いました。慣れないトイレや音、人の多さ、不便を味わうけれど、そこには人とに関わりで不便も随分と変わってくる。

　釜戸で作るカレーやご飯は最高！炊飯器で炊くより釜の方が水は少なくていい、バッテリーなんかじゃ大きな炊飯器は使えない。だけど、釜戸のご飯は最高に美味しい！避難した時はきっと不安で辛いだろうけれど、そこを今回のようにどれだけ前向きに、明日への力がもてるのか。いい体験をさせて頂きました。」

3.11.平和への祈り



開催3回目となる「3.11への祈り キャンドルナイト」をNPOぐるんとびーが主催で実施した。以下このプロジェクトの代表の富樫里美の開催を終えての言葉を掲載する。

「今年はデンマーク🇩🇰からも灯籠が届きました。東日本大震災 『2011.3.11』あの日のことを忘れてはいけない。そして未来へ「想い」を紡いでいきたい。それぞれの3.11があり振り返ることもまだまだつらい方もいらっしゃると思います。

ただ、決して忘れてはいけない、そしてコロナ禍で大切な方を亡くされたり、繋がりが希薄になってしまった今だからこそ日々の喧騒や忙しない日常を振り返り、胸に抱く想いを共有し、たくさんの人とあの日を想うとともに、当たり前の日常に感謝し、想いを共有するために願いや祈りを目に見えるカタチにできないかと考え、出てきた答えは「灯：あかり」でした。

“3.11への祈り” そして “コロナ禍で失われた多くの命” を悼み、 少しでも穏やかに過ごせるよう灯りを灯し、それぞれの平和を祈りたい。この湘南大庭から未来へ紡ぎたいという想いが今回思い描いたプロジェクトです。

世の中には被災者、被災地へむけて沢山の活動をされている方々もいらっしゃいますが、何かをさせてもらう事ではなく”あかり”を通して、3.11の出来事に触れることで、視野を広げ、他方からみるそれぞれの想いを感じ、それぞれの願いや祈りをそれぞれの未来へ繋げるきっかけを創りたい、そして3年目の今回は「平和を祈る」でした。

今も多くの国では戦争や内戦が起こっている中、一刻も早く戦争がない世界が訪れることを願ってやまない。しかし、同時に平和とは戦争のない世界だけを意味しない。社会に生きる一人として感じる生きづらさを一つ一つ解決していくことも平和な世界につながる。

3.11を悲しい出来事として未来へ紡ぐのではなく人が集い、あたたまるきっかけにし、そして、今だからこそこの小さな公園からでも元気にしたい。そして湘南大庭から育っていった子供たち、それぞれの事情でここにいない人達にもこのイベントで「おかえり」といえる場所であり続けたい。一人の地域住民として、みなさんの力をお借りしながらも精一杯、世の中を良くする責任を果たしたいと動きました。

このイベントは沢山の方々のご協力無くしては開催できないイベントです。クラウドファンディングへのご協力、湘南大庭市民センター、地域の保育園、各小中学校の先生方はじめデンマークで灯籠にご協力くださった方、ボランティアで関わってくださった皆様、お気持ちで応援してくださった方、関わってくださったみなさまに御礼申し上げます。地域の皆様にはご迷惑をおかけしたこともあると思いますが、暖かく見守ってくださったことにも重ねて感謝申し上げます。本当にありがとうございました。」

駄菓子屋クレヨン　～学び舎としての地域の居場所～

5月11日、学校が合わない子どもや地域の子供たちの学び舎としての地域の居場所、トレーラーハウス駄菓子屋“クレヨン”がオープンした。

「毎週月・木の14-17時からスタートして、息子のそうすけがこども店長をします。初日の売り上げは5000円を超え、まずまず。ぐるんとびースタッフと話し合いながらどうしたら駄菓子屋で売り上げを伸ばせるか考える。品揃え、好み、ブランディング、広報戦略。そして周りを巻き込み仲間を増やせるか。

次に、原価と利益を学んで、どうするか、どうしたいかをみんなで考える。そのうちかき氷やレモネードなどにもなっていくのかもな～とか、イキイキしてる姿見ながら妄想が膨らみます。その中で算数、足し算引き算、掛け算、割り算や%などの勉強を主体的に学んでいく。そうすけの最近の算数への取り組みがプレオープンから飛躍的に伸びています。学びの場や、学び方の選択肢を増やしていきたい。今年中にフリースクール化させていきます。」（菅原健介）

△今日のクレヨン色〇

学校へ行かない子供達が朝から集まります。今日子供達は名刺のイラストを考えました。
いつ出来るかな。まだ自分の漢字が書けない子、アルファベットが書けなかったんだって教えてくれる子
サラサラ書ける子　色々な色があっていいね。この子は今日はなんで行きたくなかったのかな。
あの子はしばらく来てたけど今日は学校行ったんだな。学校へ行く行かないで喧嘩してきた子もいる。そんなこともあるよね。親だって色んな感情あるもんね。子供達もここで色んな感情学ぶんだね。（富樫里美）

掃除＆珈琲＋運営推進会議（２ヶ月毎）

介護保険で開催が定められている運営推進会議。せっかくだから街を綺麗にしながら、ぐるんとびーの活動を知ってもらったり、人がつながるきっかけになればと始めたスタイル。

通りかかりの方達がのぞきにきて話していってくれたり、民生委員さんにもぐるんびーの利用者さんとの関わりを見て頂け、一緒に関わって頂けました。

こどもたちは誰よりもゴミを拾ったり、草抜きしたり、片付けが大変そうなスタッフを助けて大活躍。最近、小規模のみなが心配してる利用者さんも来てくださった。

久々に団地の住民さんに会えたこと、子どもたちにパワーをもらったこと、八百屋で出会った看護師さん(訪看スタッフ)に体調のこと相談したら運動教えてもらったこと、繋がりっていいね、と話してくたさった。
人が集うことで生まれた♡素敵な時間でした。（広報）

団地内での七夕飾り

　団地内の活動は、様々な制約や住民との距離が近いがゆえに難しい。時に売名行為や営業のようにとらえられてしまう。それでも、ぐるんとびーの一人一人が挨拶をしたり、ゴミ拾いや不審者の注意喚起など住民の一人として活動してきた。その積み重ねた実績により、昨年からエレベーターホールに自治会とURとのコラボで七夕飾りができた。地道で大切な活動だ。

　地域の力を少しずつ合わせて、七夕を。自治会とURコミュニティと協働して、昨年から団地のエレベーターホールに笹を設置！地域の想いや願い事が集まり、繋がりが生まれるように。

　ぐるんとびーは、繋がりのある在宅診療所へ笹を取りに。URコミュニティや自治会では、団地の皆さんに広報し、みんなで笹の飾り付けを作ったり、短冊を用意したりと、それぞれが出来ることをできる範囲で連携しあう。地域の想いが一つずつ集まって、つながり始め、普段からかの見える関係性を生み出していく。笹集め、設置に協力してくださった皆様、飾り付けや短冊を準備してくださった皆様、ありがとうございます。（広報）

SPLASH FESTIVAL 湘南大庭2024 夏祭り

　今回、2回目となるぐるんとびー主催の夏祭り。仲間、藤沢市公園課、市民センター、ボランティアの皆さんの協力で大盛況な夏祭りとなった。格闘家も参加しての子どもたちの水鉄砲バトル、キッチンカー、出店、デモファイト、PADMAのパフォーマンス、ボウサイダーのダンス、八寿花会の盆踊りと目白押し。踊り方がわからなくても、子どもも大人も高齢者も、見よう見まねで踊ってみる。

　マンションのベランダから祭りの様子を眺める方、「楽しかった！」という子どもたち。反面、騒音の苦情や水鉄砲を構える格闘家が戦争を思い起こすからやめてほしいなどのクレーム等、現代ならではの地域の難しさも感じた。

質の向上　恋するようなケアをしよう

現場の実践　　利用者と家族に向き合い、可能性を広げる

「恋するようなケアをしよう ～エゴを解放する～」が、代表の菅原が提示した定性目標だ。

「彼女や彼氏が怒った時に【易怒性あり】とか【夜間不穏】とか専門用語で言わないで、なんか最近怒りやすいな。どうしたのかな？とか、なんで眠れないのかな？って心配になるでしょ？介護保険はその延長線上で使うんだよね。」と話す。

【自尊心を高めるオシャレ】

メイクやネイルなど、オシャレを続けることで一人一人の自尊心を高めること。何歳になっても、新しい自分に出会ったり、忘れていた自分を取り戻すこと、につながる。そして、単にケアを受ける人ではなく、まだまだ人生を楽しむことができるんだ！と教えてもらったような気がします。

しかし、おしゃれは今日だけでなく日常でも。暮らしの中で、オシャレを続けることが大切。

【食後の針仕事】

「近くの小学校で雑巾が足りないんだって」使わなくなったタオルを集めてチクチク雑巾縫いが始まりました。お母さん達の手に掛かるとあっという間に完成です！

【ぐるんとごはん】

まだまだ暑い日が続きますが、身体にも優しい、ぐるんとごはん。「お彼岸も近くなったし、おはぎでも作ろうか」その時期の旬の食材を使ったり、食べる物から四季を感じる事も大切にしている事の一つです。

【目の前の人が大切にしていることを一緒に大切にする。】

お盆なのでお墓参りに。入院してからずっと行けておらず、数年が経った。最近は身体を起こすことも辛く、ベッド上の時間が長くなってきている。

昨日、ふと利用者さんが「お盆だけど行けないから、息子たちに任せてる」と半分諦めたように話されていた。それを聞き、盆入りの今だからこそ、すぐ行きましょう！と、すぐ調整して、次の日にお墓参りへ。

手を合わせながら「お父さんまたくるね。会えて良かったわ」と。いつもより疲労は強く、家に戻ってからはぐったりでしたが「行くことができて本当によかった」と。

目の前の人が大切にしていることを一緒に大切にする。改めて、その大切さを気づかせて頂きました。

インプット　　日々の実践を更新する学びの機会

ぐるんとびーは、正解を固定しない世界を生きている。日々変わる知識や技術だけでなく、思考や視野も更新できるように、一見、関係がなさそうな業界からも学びの機会をつくっている。楽しみながら、考え込みながら、新たな学びは日々の実践を更新するエネルギーとなる。

例えば、まちかど寺子屋「生きるとは？」は、フリーアナウンサーで元ヤングケアラーなど様々な背景をもつ町亞聖氏、元衆議院議員で作業療法士の堀越啓仁氏、NPO法人Goldenship理事長で作業療法士の高橋和也氏との対談。不登校、ヤングケアラー、生きることが辛いと感じている仲間がいることを知り、自分を含め誰もが「生きるのが辛い」と思う状況にどう向き合うかを考える対談。これらの学びは、社内だけでなく地域の事業所などにも声がけして一緒に学ぶ体制を作っている。

デンマーク研修は高齢者施設、森のようちえんをはじめとする教育現場や教員養成校、行政機関の見学と専門職とのディスカッションを通して、福祉、介護、教育、制度など幅広く学ぶ。”クリスチャニア” やクリスマスシーズンで盛り上がる”ニューハウン” などの散策、デンマークの素敵な家具や照明に囲まれたHYGGEな雰囲気のいつみラワーセンさんのご自宅で、デンマークの文化にも触れる。

参加者の顔ぶれもユニークで、日本全国から集まった介護事業所の代表、大学の研究者、医師をはじめとする医療従事者、医療・福祉業界ではない他業界の経営幹部など、これからの日本を動かしていく面々だ。ぐるんとびーのルーツであるデンマークに触れつつ、これからの日本をどうしていくか語り合う貴重な場となっている。

アウトプット　日々の実践を言語化し新たな学びを得る機会

ぐるんとびーは、研修や取材など普段の実践や思想をアウトプットする機会が多い。代表だけが話すのではなく、それぞれの現場の取り組みをみんなが自分の言葉で話すことで、新たな学びを得る機会となる。

ぐるんとびーが主催しスタッフが話す、中から見た在宅・地域看護のリアル、まちかど寺子屋など。他団体からの依頼で行うFUKUSHI BEAN’S 24などの研修。NHKやアエラなどのテレビや雑誌の取材、シンガポールなど海外からの視察など、多岐に渡る。

人材育成　混ざりあり、磨きあうチームづくり

介護現場と地域活動のシームレスな実践が人材育成につながる

現場で学ぶOJTと研修などで学ぶOFFJTが一般的な人材育成の方法だが、ぐるんとびーでは通常の介護現場と地域活動での試行錯誤が人材育成の相乗効果となっている。もともと入職希望者は、介護現場で働くことだけではなく地域活動に興味をもつ者が多く、事業自体も介護と地域が延長線上につながっている。

例えば、夏祭りは利用者の社会参加の場であり地域住民との交流の場でもある。また、小学校で足りない雑巾を介護サービスを受けている利用者という役割を引き受けている人が、地域に貢献する。福祉や介護の視点や技術は当然必要だが、地域を知る・根付くことで可能性も広がる切れ目のない相乗効果になる。

その人の最適解を考え挑戦し続ける姿勢は、硬直化しがちな介護現場の勇気にもなり、取材や研修などのアウトプットの機会にもなっている。つまり、地域の視点を入れつつ福祉や介護の実践を高めていくことは、同時に多角的な人材育成につながっていると言える。

インドネシアなど、外国人介護人材の活用と響き合い

ぐるんとびーでは、多様な価値観をもつ外国人介護人材の活用を進めている。単なる足りない人手の補充ではなく、日本人とはまた違った考え方や文化をもつ外国人の特性を活かし、お互いに新たな視点を生み出す響き合いの機会としていきたい。

1月に日本へ入国する。さぞかし不安であろう。ぐるんとびーの仲間と必要なものの買い出し、家具の組み立て、地域の紹介、生活や現場に慣れるように応援したい。

次のぐるんとびーをつくるコアチーム

2025年は事業拡大を視野に入れ、今いる仲間のチーム力を高める必要がある。

管理者や現場スタッフにもその認識はすでにあり、全スタッフ対象のチームビルディング研修に積極的に参加していた。

来年は、管理者と有志によるコアチームをつくり、一年かけてチームの成長法則や心理的柔軟性、心理的安全性を学び、現場の課題を現場のスタッフとともに解決していくプロジェクトを立ち上げる。

単なる学びだけではなく、実践にこだわる。楽しいが、創り出す苦しさを感じ、成功体験を生み出すようにしたい。

2024年の振り返り＋2025年に向けて

原点回帰だった2024

2024年の活動は、能登半島地震の緊急支援から始まった。自治会の餅つき大会、掃除＆珈琲の運営推進会議など、地道な地域活動もした。防災キャンプ、3.11キャンドルナイト、夏祭りなど、ぐるんとびーらしい活動もしてきた。

また、日頃の実践を整理し発信する勉強会も数多く開催した。取材や見学などを通して、それぞれ自分の言葉でぐるんとびーの大切にしていることや自分なりの解釈をアウトプットしてきたことだろう。

偶然かもしれないが、コロナでストップしていたデンマーク研修の再開も意味深い。参加した方々の学びはもちろんのこと、ぐるんとびー側の再確認や更新のきっかけになったのではないだろうか。

振り返って見ると、2024年はぐるんとびーの原点回帰の一年だったのではないだろうか。湘南大庭でできることに挑戦し続けてきた一区切りとも見えるほど、完成度の高い活動をしてきたと思う。

発想を広げ、拡大期に入る2025

新たな動きも見え始めている。子どもたちによる駄菓子屋クレヨンのスタートは、今まで高齢者介護に偏っていた焦燥感を打開する可能性をもつ。春には放課後等デイサービスの開設も控えており、今までも行ってきた子どもたちとの活動が目にみえるかたちに地域に展開される。

鎌倉での展開も検討中だ。大庭とはまた違う地域性、ニーズ、文化にあわせて展開していく必要がある。また物理的な地域の展開以外に、ぐるんとびーの思想や活動に共感をもつ法人とフランチャイズなどでサービス展開する可能性もありえる。

いずれにせよ、2025年は拡大期に入るのだろう。

一層、人材育成が重要になる一年

高齢者だけでなく子どもへと対象が広がり、サービス内容、事業所、地域の拡大が2025年から始まる。最も心配なのが、新たなステージをつくる人材の確保だ。まずは、管理者と有志のコアチームをつくり、現場スタッフと共に学びと実践を往復するチームビルディングのプロジェクトを実践する。